

1.1系統から20系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
1	中山駅前	緑車庫前、梅の木、上星川、松本	横浜駅西口	緑		C	中型車運行多数
	中山駅前	緑車庫前、鴨居町	竹山団地折返場	緑	神奈中	DC	中型車運行多数 (共通定期券の取り扱いは無し)
	中山駅前	西村橋、石神	緑車庫前	緑		B	出入り便
1系統解説	トップナンバーの路線です。かつては横浜駅西口から中山駅は1,36,39,横51,52(神奈中)の5路線ありましたが、36系統が短縮されたので現在は4路線になりました。横浜駅西口から松本、三ツ沢、和田町、梅の木、笹山を通り、鴨居橋で左折し、緑車庫を経て中山駅に行きます。本数は1時間に1本程度です。竹山団地行きは56系統の補充路線みたいなもので、こちらも本数はあまりありません。なお、中山駅前～緑車庫前間の出入子系統は表示上では無系統ですが、扱いの上では1系統の扱いとなります。このため、中山駅前～緑車庫前間の運行頻度はB程度となります。						
2	港南車庫前	清水橋、上大岡駅前、弘明寺、羽衣町、日本大通り駅前、中華街入口	みなと赤十字病院	港南		DC	
	港南車庫前	清水橋、港南区総合庁舎前	上大岡駅前	港南		IC	
2系統解説	かつては横浜駅(東口)から大船駅まで通っていた路線です。それが県庁前(現在は日本大通り駅前)～港南車庫になり、さらに県庁前から港湾病院(現在のみなと赤十字病院)まで延長されました。県庁前終点時代は本数は少ないものの一日中走っていたのですが、現在は上大岡駅～みなと赤十字病院間は日中のみの運行となっています。みなと赤十字病院を出て、国道133号を本町一丁目まで走り、鎌倉街道に入ります。あとは港南車庫まで一直線です。上大岡駅からの区間便は他系統の出入りを含めてかなりの本数がありましたが、2005年7月のダイヤ改正で大幅に減便されてしまいました。						
3							
3系統解説	横浜駅西口から東神奈川駅西口、六角橋、篠原池、(途中新横浜駅発有り)又口橋、小机駅、川向町、佐江戸、川和町を経て東急田園都市線市が尾駅まで行き歴史のある系統でしたが、東急バスとの乗り入れ路線ということもあり東急バスへ移譲されました。移譲の前に2005年11月末まで市が尾駅から川和町、瑞雲寺を経由して港北ニュータウン車庫へ行く路線が廃止され、ついで2006年11月に移譲を前提としたダイヤ改正が実施され、東急バスは又口橋～横浜駅西口間を廃止し、横浜駅西口行きの市営バス3系統も1時間に1本程度の運転となりました。2007年3月16日に路線移譲が行われ、市が尾駅～新横浜駅間の路線となり市営バスは廃止されました。						
4	磯子駅前	杉田、長浜、金沢文庫、金沢八景、追浜駅前	追浜天神橋	磯子	京急	B	特殊運賃制 平日は京急とあわせて頻度A 土曜・休日は京急とあわせて頻度B (市営だけの場合頻度C)
4系統解説	かつては横浜駅から六浦まで走っていました。京浜急行バスとの相互乗り入れ路線で、ほぼ両社のバスが交互に運行されています(京浜急行バスは(京浜急行バスの)追浜車庫前まで運行)。磯子駅を出て、磯子車庫前で右折し、国道16号線に入ります。以後は富岡、長浜、金沢文庫、金沢八景、追浜駅まで行きます。追浜駅で左折し、次の追浜天神橋が終点です。杉田から先は対キロ運賃区間になります。						
	横浜駅西口	洪福寺、梅の木、鶴ヶ峰駅、今宿	亀甲山	保土ヶ谷 若葉台	神奈中	C	特殊運賃制 鶴ヶ峰駅～大雲橋間(伊豆田山登差)

1.1系統から20系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
5	横浜駅西口	洪福寺、梅の木、鶴ヶ峰駅、今宿	若葉台中央	保土ヶ谷 若葉台	神奈中	C	鶴ヶ峰駅～入員間間は電中山元有便、115系統とあわせて頻度B
	横浜駅西口	楠町、浅間町車庫前、洪福寺	保土ヶ谷車庫前	保土ヶ谷		IC	出入り便 (保土ヶ谷車庫前発は峰小学校経由もあり)
	亀甲山	今宿、鶴ヶ峰駅、梅の木、和田町	保土ヶ谷車庫前	保土ヶ谷	神奈中	IC	特殊運賃制、入庫便 (平日、土曜の最終便のみ運行)
	鶴ヶ峰駅	今宿、都岡町	よこはま動物園 (ズーラシア)	保土ヶ谷 若葉台		DC	特殊運賃制 主に日中の運行
5系統 解説	<p>亀甲山と書いて、「かめのこやま」と読みます。横浜駅西口から洪福寺、上星川、西谷、鶴ヶ峰駅、今宿、下宿と、ひたすら国道16号線を走ります。以前は亀甲山行きだけでしたが、最近になって大貫橋から若葉台中央に行く便ができました。反面、国道16号線の渋滞がひどいため、平日・土曜の朝方7時・8時台は鶴ヶ峰駅～横浜駅西口間は1本も運行されません。</p> <p>全線神奈中バスと併走します。神奈中バスは亀甲山の先、小田急江ノ島線の鶴間駅まで行きます。亀甲山でも55分かかりますので、こちらに全線乗ると1時間以上かかります。</p> <p>保土ヶ谷車庫への出入り便は原則として宮田町の先で左折して保土ヶ谷車庫に入りますが、一部の便は保土ヶ谷車庫から峰小学校前経由で運行されます。また、1999年4月のよこはま動物園「ズーラシア」の開業に伴い、鶴ヶ峰駅からよこはま動物園に行く路線ができました。鶴ヶ峰駅からは相鉄バスもよこはま動物園へ行くバスを運行していますが、相鉄バスと市営バスでは途中経由地が異なります。</p>						
6							
6系統 解説	かつては青葉台駅から(東急バス)青葉台営業所、田奈駅を経由して奈良北団地に行く路線にこの番号がありました。しかし、同区間をショートカットで結ぶ118系統が出来、又休日などこどもの国へ向かう渋滞の多い区間を通ることから廃止となりました。詳しくは「市営バスあれこれ」ページをご覧ください。						
7	横浜駅前	東神奈川駅西口、岸谷、三ツ池道	川崎駅西口	鶴見		C	リフト車運行 横浜駅前～三ツ池道(鶴見駅方向は宮の下)間は29系統と合わせて頻度B
7系統 解説	横浜駅というバスに関しては西口の方がにぎやかに感じますが、元々は西口発の多くのバスが東口から出ていました。京浜急行神奈川駅近くの青木橋の工事によって西口発になったものです。7系統もそういう経緯から一度西口発になったのですが、横浜そごうオープンにあわせて東口発に戻りました。青木橋を渡り、あとは川崎市南幸町までひたすら第2京浜を走ります。川崎市内、川崎駅に乗り入れる横浜市営バスです。						
8	本牧車庫前	和田山口、中華街入口、日本大通り駅県庁前	横浜駅前	本牧磯子		C	リフト車運行 深夜バス運行 横浜駅 本牧原、本牧車庫前間は頻度B(58系統と合わせると頻度B)
	本牧	本牧三溪園前、和田山口、中華街入口、日本大通り駅県庁前	横浜駅前	本牧		C	本牧発のみ運行 リフト車運行

1.1系統から20系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
8系統解説	横浜市営バスが出来てまもない頃から走る路線です。横浜駅から乗ると桜木町駅、日本大通り駅県庁前、中華街、みなと赤十字病院入口、小港橋を通り、小港で本牧通りに入ります。本牧で左折し、本牧三溪園前を通って本牧車庫前までの路線です。本牧三溪園のあたりは上りと下りで経路が違い、本牧車庫発のバスは本牧三溪園前を通りません。そのために、本牧車庫から本牧まで回送し、本牧から三溪園を通って横浜駅に向かう便があります。						
9	磯子車庫前	磯子駅前、滝頭、岡村町、弘明寺、保土ヶ谷駅東口	藤棚	滝頭		C	滝頭～保土ヶ谷駅東口間は頻度B 水道道～藤棚間は平日のみ運行
	滝頭	岡村町、弘明寺、保土ヶ谷駅東口	横浜駅前	滝頭		C	
9系統解説	全線を通して走る便がない路線です。横浜駅から出る便は国道1号を保土ヶ谷橋まで走ります。保土ヶ谷橋で左折し、井土ヶ谷を経て通町1丁目で鎌倉街道に入ります。弘明寺から旧道に入り、こんなところを走るとかという道路を走り、岡村町を経て滝頭に行きます。藤棚発はその先、八幡橋、磯子駅、磯子車庫前まで行きます。滝頭～弘明寺間はひたすら狭い道路を走るのですが、この路線は横浜市で最初にワンマンカーの運行を行った路線の一つだそうです。藤棚発着便は2006年1月末のダイヤ改正で平日のみの運行となりました。						
10	市電保存館前	磯子駅前、杉田駅前、栗木町	峰の郷	滝頭		IC	小型車運行
	磯子駅前	杉田駅前、栗木町	峰の郷	滝頭		C	小型車運行
10系統解説	1995年まで車掌さん(添乗員)の乗務するバスでした。しかし、日野のリエッセを導入し、小型車化すると同時にワンマンカー運行となりました。市電保存館前～磯子駅前間は出入りの感が強く、一日数本の運行です。市電保存館から磯子駅、国道16号に入って中原から狭い道に入ります。狭い道を杉田駅、栗木町まで行きます。栗木町から一度広い道路に出ますが、萩台から再び狭い山道に入ります。以前の終点の峰で、ここは円海山という山の中にありました。峰に着いたバスは狭い折り返し場にバックして入り、向きを変えて折り返していましたが、2001年6月末にその先の峰の郷まで路線が延長されました。						
11	保土ヶ谷駅東口	蒔田駅前、中村橋、平楽中学校前、港の見える丘公園前	桜木町駅前	滝頭		C	
11系統解説	桜木町駅から保土ヶ谷駅に行くバスは市営・相鉄をあわせて3路線あるのですが、このバスが一番遠回りをして保土ヶ谷駅まで行きます。桜木町駅を出ると保土ヶ谷駅とは反対側に向かって走り出し、日本大通り駅県庁前、中華街、港の見える丘公園へと向かいます。外人墓地の脇を通り、地蔵坂上からがこのバスのハイライトです。この系統も「こんなところを通るのか?」というところを通ります。ところによってはバス同士のすれ違いが困難なところもあり、バス専用の待機信号機もあります。山谷の米軍住宅の脇を曲がると、稲荷坂を一気に下りて中村橋に行きます。この稲荷坂と港の見える丘公園へ行く谷戸坂は雪にもろく、大雪が降るとこの区間は迂回運転されてしまいます。						
12	緑車庫前	(白山高校前)、鴨居駅前、菅田町	西菅田団地	緑		B	白山高校経由は一部便のみ
	中山駅前	緑車庫前、(白山高校前)	鴨居駅前	緑		C	白山高校経由は一部便のみ
12系統解説	最近まで横浜駅西口～三ツ沢グランド、西菅田団地、鴨居駅～緑車庫前のことを指していましたが、系統整理によって横浜駅西口から菅田町間が81系統となり、中山駅・鴨居駅から白山高校、西菅田団地あたりの路線となりました。						
	鶴見駅前	三ツ池道、末吉橋、一の瀬	綱島駅前	港北鶴見		B	

1.1系統から20系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
13	鶴見駅前	三ッ池道、末吉橋	一の瀬	港北 鶴見		A	運行頻度は綱島駅行を含む深夜バス運行
	鶴見駅前	三ッ池道、末吉橋、一の瀬	新横浜駅前	港北		C	運行頻度は樽町中央～新横浜駅間のもの
13系統解説	鶴見区と港北区を結ぶ幹線です。鶴見駅を出て、三角(みかど)、三ッ池道、末吉橋、一の瀬へと走ります。全体の2/3程度がこの一の瀬止まりです。その先、綱島駅へは20分から30分間隔で運行されます。鶴見川を大綱橋で渡り、かつては温泉で栄えた綱島駅へ乗り入れます。綱島駅周辺は道路が狭く、駅構内に入るのなかなか大変です。 鶴見駅～新横浜駅線は当初は本当に出入り便としての位置づけで運転されていましたが、現在は若干運行本数も増え、単なる出入り便ではなくなってきています。						
14	新横浜駅前	師岡、三ッ池道、鶴見駅西口、柳町	新子安駅西口	港北		C	新横浜駅～鶴見駅西口間は104系統とあわせて頻度A(時間帯によってはB、三ッ池公園北門～鶴見駅西口間はほぼ終日頻度A)
	梶山	末吉、三ッ池道、鶴見駅西口、柳町	新子安駅西口	港北		C	
14系統解説	なかなか複雑な運行形態をするバスです。以前は梶山～新子安駅西口間のバス路線でしたが、一部が104系統と統合の上、新横浜駅～新子安駅西口という路線になりました。では、その結果104系統が廃止になったかということ、そうではなく、新横浜駅～鶴見駅西口という便は104系統のままです。その結果、14系統と104系統の関係は以下になりました。 <ul style="list-style-type: none"> ・新横浜駅前～新子安駅西口:14系統 ・梶山～新子安駅西口:14系統 ・梶山～鶴見駅西口:14系統 ・新横浜駅前～鶴見駅西口:104系統 ・新横浜駅前～梶山(出入り便):104系統 です。鶴見駅西口から新横浜駅前へは41系統もあります。						
15	鶴見駅前	汐入町2丁目、向井町2丁目、汐鶴橋	鶴見駅前	鶴見		B	
15系統解説	鶴見区を代表するような路線です。鶴見地区のバスは、一部の例外を除いてどの系統も番号が比較的若いものになっています。これは、鶴見地区に市電があまり走らなかった(あまりと書いたわけは鶴見線という路線が戦時中に生麦～鶴見駅まで作られたためです。戦災で運行不能となり、その後戦後すぐに進駐軍によって線路が埋められてしまいました)ことなどから古い路線が多く、結果的に番号も若いものが多いと考えられます。 この循環線(内回り)は鶴見駅を出た後いったん国道15号線(第1京浜)に沿って走ります。が、すぐに左折。本当通りの商店街を通り、本町通3丁目の先で右折し、今度は汐入町2丁目まで左折します。そのまま産業道路を入舟橋まで走って左折。その後は向井町を通り鶴見駅に戻ります。						
16	鶴見駅前	平安高校前、向井町2丁目	鶴見駅前	鶴見		B	内回りは平日朝4本のみ(頻度は外回りのもの)
	鶴見駅前	芦穂橋、平安高校前	鶴見駅前	鶴見		C	一方循環 平日の朝夕のみ運行

1.1系統から20系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
16系統 解説	昔は鶴見駅～生麦がメインルートだったのですが、現在この区間を走る便はなくなりました。鶴見駅から生麦に向かうのに、わざわざ生麦とは反対側の川崎方向に向かうユニークな路線でした。残った循環線は箱根駅伝で有名な鶴見の中継ポイントのあるところを通り、平安町で国道15号線(第1京浜)と別れます。向井町を抜けて鶴見駅に戻ります。また、平日の朝夕には臨港バスが主に走る芦穂橋経由の循環線もあります。以前は生麦行きの他に汐入町方面の循環線がありましたがこちらは生麦行き同様廃止となっています。						
17	鶴見駅前	明神前、大黒ふ頭、L8バス(大黒ふ頭)循環	生麦	鶴見		C	休日運休
	鶴見駅前	明神前、大黒ふ頭、大黒海づり公園	スカイウォーク前	鶴見		C	
	鶴見駅前	明神前、大黒ふ頭	スカイウォーク前	鶴見		C	
	鶴見駅前	明神前、大黒大橋	横浜さとうのふるさと	鶴見		C	
	鶴見駅前	明神前、大黒ふ頭	流通センター	鶴見		EC	平日夕方のみ運行
	鶴見駅前	明神前、大黒ふ頭、流通センター	大黒海づり公園	鶴見		MC	
	生麦	明神前、大黒ふ頭	大黒海づり公園	鶴見		MC	大黒海づり公園発のみの運行
	生麦	明神前、大黒大橋	スカイウォーク前	鶴見		C	109系統出入り兼用
	生麦	明神前、大黒大橋	横浜さとうのふるさと	鶴見		C	
17系統 解説	鶴見駅と大黒ふ頭周辺を結ぶ幹線です。運行形態としては鶴見駅を出て、明神前から大黒地区に入り、各目的地に着くと今度はそこで折り返して再び明神前まで行き、生麦に行くというのが運行形態(109系統の出入りとして生麦～スカイウォーク前線もあります)でしたが、最近ちょっと様子が異なってきています。横浜さとうのふるさとはかつて「大黒町岸壁」と呼ばれていましたが、バス停名が変更になりました。大黒ふ頭に私が初めて来たのはまだベイブリッジが出来るだいぶ前でしたが、あたりはずいぶん変わってしまいました。なお、各子系統単位の運行頻度はCにしていますが、鶴見駅～明神前間は頻度B、両方向からのバスが走る明神前～大黒大橋間は頻度Aとしていいかと思えます。						
18	生麦	鶴見駅前、元宮、尻手駅前、江ヶ崎	矢向駅前	鶴見		DIC	中(小)型車運行 平日日中のみ運行
	鶴見駅前	元宮、尻手駅前、江ヶ崎	矢向駅前	鶴見		DC	中(小)型車運行 平日日中のみ運行
	生麦	鶴見駅前、元宮、尻手駅前	矢向駅前	鶴見		IC	中型車運行
	鶴見駅前	元宮、尻手駅前	矢向駅前	鶴見		C	中型車運行

1.1系統から20系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
18系統 解説	鶴見営業所の中(小)型車担当路線です。生麦から鶴見駅までは出入り便の印象が強いですが、生麦から出るバスで唯一鶴見駅までストレートに国道15号線(第1京浜)を走る路線となっています。鶴見駅を出たバスは、ちょっと国道15号線(第1京浜)を走りますが、すぐに裏通りに入ります。中(小)型車が走るにふさわしい道の狭さです。鶴見川を渡り、元宮、そしてJRの元宮踏切を渡ります。一度閉じてしまうとなかなか開かない踏切です。もう少し狭い道を通り、国道尻手で一度第2京浜に入ります。尻手駅を通った後で右折し、道幅の狭い道路を走り南武線の矢向駅に着きます。平日の日中に限り、矢向駅に行く前に江ヶ崎に立ち寄る便があります。						
19	鶴見駅前	明神前、宝町	新子安駅前	鶴見		C	
	新子安駅前	生麦、明神前、宝町	新子安駅前	鶴見		RB	平日朝夕のみの運行 朝夕で循環方向が異なる (朝 方向循環、夕 方向循環)
	生麦	明神前、宝町	新子安駅前	鶴見		DC	
19系統 解説	鶴見駅と新子安駅を結ぶ路線です。鶴見駅を出たバスは明神前まで国道15号線(第1京浜)を走り、左折の後しばらくは大黒方面に向かって走ります。新興駅(貨物駅(現在は貨物駅跡))前で右折し、宝町を経由して新子安駅に着きます。全線を通して走る便の他に生麦発着便もあります。また、平日の朝晩は新子安駅からの循環便も運行されています。以前は新子安駅から大黒ふ頭循環線もありましたが、そちらは廃止になりました。						
20	山手駅前	港の見える丘公園、元町入口、マリントワー前	山下ふ頭	本牧		B	山手駅発は平日朝～夕までの運行 山手駅行は曜日に関係なく終日山下ふ頭発
	山手駅前	港の見える丘公園、元町入口、マリントワー前	山下ふ頭入口	本牧		B	平日夕方以降、土曜・休日の終日の一方方向運行 小型車運行
20系統 解説	第2次世界大戦以前から走る歴史のある路線です。元々は横浜駅から山手駅を循環し、横浜駅へ戻る路線でしたが、みなとみらい線とルートのかぶるなどから路線改変の対象となり、2005年2月末から山手駅～山下ふ頭(山下ふ頭入口)というルートに変更され、同時に営業所の移管(浅間町 本牧)と小型車化が実施されました。山手駅～上野町間、北方小学校前～元町入口間は道幅の狭いところや急カーブ、急坂を走ります。山手駅～上野町間の大和町1丁目、大和町2丁目は上りと下りで経路が異なるため、バス停の位置が少々離れています。以前はこのためからか山手駅を越えての乗車が出来たのですが、山下ふ頭発着に改変された後は山手駅が正式な起終点となり、山手駅を越えての乗車は出来なくなりました。						